

近代作家 エピソード辞典



村松定孝

編

常人とは異なる近代作家100人のエピソード!

近代文学史や作家論とは異なる観点から作家に光を当て、
名作を生み出すための知られざる苦心談や、生活面での
生きさまを読み物風に紹介し、作家の人間像を描く。!

東京堂出版

近代作家 エピソード辞典



村松定孝

編

東京堂出版

編者略歴

大正7年山梨県に生まれる。昭和24年早稲田大学文学部大学院修了。上智大学名誉教授、早稲田大学、昭和女子大学講師。文学博士。

著書『近代文学の系譜』（社会思想社）、『泉鏡花事典』（有精堂出版）、『あぢさゐ供養頌一わが泉鏡花』（新潮社）、『文章表現法』『新版文章表現辞典』『国語表現辞典』『四字成語活用辞典』『近代作家名文句辞典』（東京堂出版）ほか多数。

現住所 東京都文京区大塚6-9-3

近代作家エピソード辞典

平成3年7月10日 初版印刷

平成3年7月30日 初版発行

編 者 むら村 まつ松 さだ定 たか孝

発行者 大 橋 信 夫

印 刷 図書印刷株式会社

製 本 図書印刷株式会社

発行所 さん鑒 東 京 堂 出 版

東京都千代田区神田錦町3-7〔〒101〕

電話 東京3233-3741 振替 東京3-270

ISBN4-490-10290-9 C1595

© Sadataka Muramatu 1991

はじめに

ここに取上げた百人の近代作家のうち、約半数の文学者は東京堂刊のコータリイ「明治大正文学研究」編集の途次、筆者が直接お目にかかった人たちであり、その項目は、いわば文壇人回顧録と称しても、よいものである。

また、これらの作家・評論家・国文学者の出現以前の先輩作家（坪内逍遙・森鷗外・夏目漱石・芥川龍之介など）についてはその記録や遺族の言葉などを参考にして、エピソードに類するものを収録した。

およそ、小説家には、かれが文壇の人となり世に処してゆくうえに三つのタイプがあるように思われる。その第一は処女作によって、いち早く名声を馳せ、天馬空をゆくがごとく自己の作風のきらびやかさの栄光にめぐまれたタイプで、横光利一や川端康成や三島由紀夫が好例であろう。第二は純文学の新進として世に出たうえで、なかばから大衆作家に変身したり、実業家、社交家として生きのびたタイプである。菊池寛や久米正雄を挙げることができ

る。

第三は花やかな登場をしたわけでもなく、一世を風靡するような流行作家時代があったわけでもないが、つねに自分の持味を保ち、時勢の変化にも媚びず、一定の愛読者にささえられている悠々自適のタイプ、これこそ文学生活者として最も純粹で悔いなき人生といつてよいが、筆者は井伏鱒二のうえにそれをみる。

以上、さまざまな作家の様相を眺めつつ、それらの作家の全貌を解明するとなれば、歴大な紙数を費さねばならないわけであるが、幸いにして、島村抱月が、まことに好都合な意見を残している。それによると、文学者は、日常で、ふと *Passing Word* (ゆきずりの言葉) をもらす、それは、かれの素顔であり本音を反映しており、その言葉からわれわれは作家の特質や思想に迫ることができるというのである。すなわち、これを以てすればパッシングワードをとらえることで、作家研究の糸口を見出しうることになるのである。

筆者は、ここに着目し、つとめて、作家の談話の幾つかのなかからその人ならではの口吻を採集することを怠らなかつた。さらに注目したいのは、かつてアナトオル・フランスが「作家がその作品に自分以外の何者かをそそぎこんだと自負しているのは、すべて幻覚であり、一切の小説は何らかの意味で作者の自叙伝である」と規定したことと「批評家とは名著大作の間をめぐって、魂の冒険を快く語る人である」と述べていることである。

3 はじめに

本書で、示そうとした存念も、まったく、このアナトオル・フランスの言葉と合致するものであり、筆者は、わが国の近代作家の数々の作品の中から作家の全貌をつかむスタディに留意し、自身の各作家の作品から受けた感動を読者につたえる方針をとった。従って、エピソードから飛躍して、名作鑑賞とその作品のよって来るところの原点をさぐるような方法をもこころみたのであった。

なお、作家名に関連して、文学研究家及び名作が上演された際の俳優の苦心談などにも筆をのばすことにした。

総じて作家は時代の子と云われ、その時代の動きや社会の推移から逃れて存在するものではない。たとえ、周囲に無頓着であったとしても何らかの意味で、時代の息吹きを感じさせる作品をえがき出している。世に反抗したり、絶望することも一種の時代の子の告発として、われわれは、受け取るべきかもしれない。これは詩歌人の場合にも、大いに云えることで、花を愛で、鳥の囀りを聞きながら、彼等は己の自叙伝を詩に、短歌に、俳句に托しているのである。

「時代が作家を生み、作家が時代を作る」ものであるとすれば、彼等の作物には時代思潮の反映があり、ふともらした言葉も己を語っていることになる。

本書は近代作家のエピソードを収録することを目的としたものであるが、世に通用してい

る多くの近代文学史や作家論とは異なる観点から作家に光りを当てたものとして、読解を乞うものである。また本書が文学教育の参考書としても役立ち、文学専攻の学生や一般文学愛好者の求める作家の伝記的知識、作品鑑賞のアシストたりうれば幸いである。

本書の刊行について東京堂出版の山下鉄郎氏と編集部各位の多大な尽力のあったことを銘記し、深謝のことばにかえる次第である。

平成三年 春

文学博士 村松定孝

近代作家エピソード辞典

* 目次

会津八一	あいずやいち	1
秋田雨雀	あきたうじゃく	3
芥川龍之介	あくたがわりゆうのすけ	5
安部公房	あべこうぼう	7
有島生馬	ありしまいくま	9
有島武郎	ありしまたけお	11
有吉佐和子	ありよしさわこ	13
飯田蛇笏	いいだだこつ	15
五十嵐力	いがらしちから	17
石川三四郎	いしかわさんしろう	19
石川啄木	いしかわたくぼく	21
石田波郷	いしだはきょう	23

3 目 次

泉	鏡	花	いずみきょうか……………	26
伊藤	整	いとうせい……………	28	
井上	靖	いのうえやすし……………	30	
井伏	鱒	二	いぶせますじ……………	32
岩本	素	白	いわもとそはく……………	34
江戸川	乱	歩	えどがわらんぼ……………	36
太田	水	穂	おおたみずほ……………	38
小川	未	明	おがわみめい……………	41
奥野	信	太郎	おくのしんたろう……………	43
尾崎	一	雄	おさきかずお……………	45
尾崎	紅	葉	おさきこうよう……………	47
海音寺	潮	五郎	かいおんじちようごろう……………	50

加藤 楸 邨	かとうしゅうそん	52
河 竹 繁 俊	かわたけしげとし	54
川 端 康 成	かわばたやすなり	56
菊 池 寛	きくちかん	58
岸 田 国 士	きしだくにお	60
北 原 白 秋	きたはらはくしゅう	62
喜多村 緑 郎	きたむらろくろう	64
木 村 毅	きむらき	66
木 村 莊 十	きむらそうじゅう	68
木 山 捷 平	きやましようへい	70
金田一 春 彦	きんだいち はるひこ	72
国木田 独 歩	くにきだどっぽ	74

5 目 次

久保田 万太郎	くぼたまんたろう	77
河 野 多恵子	こうのたえこ	79
小 杉 天 外	こすぎてんがい	81
五味 康 祐	ごみやすすけ	83
西 条 八 十	さいじょうやそ	85
佐 多 稲 子	さたいねこ	87
佐 藤 春 夫	さとうはるお	89
里 見 弴	さとみとん	91
塩 田 良 平	しおだりようへい	93
志 賀 直 哉	しがなおや	95
島 崎 藤 村	しまざきとうそん	97
島 村 抱 月	しまむらぼうげつ	99

清水基吉	しみずもとよし	102
下村湖人	しもむらこじん	104
杉田久女	すぎたひさじょ	106
セルゲイ・エリセーエフ		108
太宰 治	だざいおさむ	110
谷口吉郎	たにぐちよしろう	112
谷崎潤一郎	たにざきじゅんいちろう	114
田村俊子	たむらとしこ	117
田山花袋	たやまかたい	119
坪内逍遙	つぼうちしょうよう	121
津村節子	つむらせつこ	123
暉峻康隆	てるおかやすたか	125

7 目 次

花柳 章太郎	はなやぎしょうたろう	150
長谷川 伸	はせがわしん	148
野間 宏	のまひろし	146
野口 雨情	のぐちうじょう	144
丹羽 文雄	にわふみお	142
西村 真次	にしむらしんじ	139
夏目 漱石	なつめそうせき	137
中村 草田男	なかむらくさたお	135
長田 幹彦	ながたみきひこ	133
永井 荷風	ながいかふう	131
内藤 濯	ないとうあろう	129
徳富 蘆花	とくとみろか	127

浜田 広介	はまだひろすけ……………	152
林 芙美子	はやしふみこ……………	154
樋口 一葉	ひぐちいちよう……………	156
久松 潜一	ひさまつせんいち……………	158
火野 葦平	ひのあしへい……………	160
平塚らいてう	ひらつからいちよう……………	162
深沢 七郎	ふかざわしちろう……………	164
藤村 操	ふじむらみさお……………	166
堀口 大学	ほりぐちだいがく……………	168
堀 辰雄	ほりたつお……………	170
本間 久雄	ほんまひさお……………	172
正岡 容	まさおかいる……………	174

9 目 次

正 宗 白 鳥	まさむねはくちよう	176
松 本 清 張	まつもとせいちょう	178
三 島 由紀夫	みしまゆきお	181
武者小路実 篤	むしやのこうじさねあつ	183
森 鷗 外	もりおうがい	185
安 岡 章太郎	やすおかしょうたろう	187
柳 田 泉	やなぎだいずみ	189
柳 田 国 男	やなぎだくに お	191
山 岡 莊 八	やまおかそうはち	193
山 中 峯太郎	やまなかみねたろう	195
横 光 利 一	よこみつとしかず	198
与謝野 晶 子	よさのあきこ	200

与謝野 鉄 幹	よさのてっかん……………	202
吉 村 昭	よしむらあきら……………	204
吉 屋 信 子	よしやのぶこ……………	206
若 山 牧 水	わかやまぼくすい……………	208